

2023年度 第1回 鋼構造座屈小委員会議事録(案)

1. 日時 2023年4月28日(金)16時00分～18時00分
2. 場所 Web会議
3. 出席者 五十嵐規矩夫, 宇佐美徹, 金尾伊織 (主査), 木村祥裕, 倉田真宏, 小橋知季
田川浩, 中澤祥二, 松井良太, 城戸將江 (記録)
(敬称略, 下線は欠席者)

4. 配付資料

- 01-01 2022年度第4回鋼構造座屈小委員会議事録(案) (金尾)
- 01-02 2023年度第1回鋼構造座屈小委員会議題 (金尾)
- 01-03 座屈設計指針1980
- 01-04 座屈小委員会スケジュール表.xlsx (金尾)
- 01-05 塑性設計小委員会からの提案 (金尾)
- 01-06 20230428_座屈小委員会資料_国際連携WG (倉田)
- 01-07 0424国際化WG打合せ資料 (3) (小橋)

5. 議事内容

資料01-01

- ・資料01-01に基づき前回議事録の確認を行い, 承認された.
- ・国際連携WGは運営委員会では承認されている, WGの設置申請書を木村委員から事務局に提出する.
7月末の構造本委員会で承認されたのち, ストレージが使用できるようになる.

資料01-02~01-04

- ・鋼構造運営委員会 (5/17) で集中審議では, 諸問題の報告, 座屈設計指針の改定方針, 国際連携WGについて報告する. 内容について次のように審議・決定した.

●諸問題の報告

各章4~5枚程度 (もう少し少なくともよい), 6章は2枚程度のpptを作成する. 各章の代表委員がとりまとめ, 5/10までに学会ストレージにアップロードする.

●座屈設計指針の改定方針

次のような意見が出された

- ・一般的に知られている事項を並べた書籍はすでにあるため, 教科書は作らず指針で省略したところはそのような書籍を引用するというのではダメなのか? 松井委員が座屈に関連する日本語の教科書の現状についての資料を作成予定.
- ・指針と教科書をリンクさせると, 別冊とする教科書の意味もあるのでは?
- ・教科書という名前が適切でないかもしれない.
- ・座屈設計指針の4つの目的によれば, 教科書的な内容であることを許容していると考えられる.
- ・「教科書」の対象とする読者を明確にする必要がある. 大学の講義で用いる, あるいは大学で座屈の問題について勉強してこなかった人も対象となる.
- ・どこに何が書いているかわかるようにする, 指針の囲みとなるような部分を抽出するのもいいのではないかと? 辞書的に見たい人, 例題なども見たい人など, 読者の要望にさっと応えられるような内容にすればよい. 本にこだわらないのなら, いろいろやり方があると考えられる.
- ・ラチスシエルの章をどのようにすべきかについては, ラチスシエル屋根構造設計指針改定小委員会のほうでも議論をされると思われるので, 次回以降中澤委員から適宜情報提供いただく.

次の事項を当面の方針として決定した。

- ◎座屈設計指針の4つの目的は踏襲する。方針としては内容が多くなっているので読みやすく整理する。現時点では、おおまかに教科書、指針に分類されるような内容となっているので、どのように整理するかを1年かけて検討する。
- ◎将来的に鋼構造関係の規準・指針を体系化するという方向性があるようなので、その方向性を見据え、座屈設計指針をどのように改定していくのかも検討する。
- ◎1980年版は教科書的意味合いが強く、指針の解説書となっており、設計者が座屈設計指針を見てすぐ設計できるわけでもない。どの式を使えばいいのかが分かるようにしたらよい。
- ◎教科書としての役割もあると考えられるが、仮に教科書のようなものを作る場合は価格的にも学生が気軽に手に取れるものとできるとよい。分冊化や学部生向けの部分は電子化なども考えられる。

資料01-05

次回審議とするので、次回の会議までに資料を見ておくこととなった。

資料01-06

- ・資料01-06に基づき、倉田委員より国際連携WGのスケジュール、作業内容について説明された。
- ・日本語著者の方にはほぼ同意が取れている。
- ・資料01-07に基づき、小橋委員より4章の編集方針について説明がなされた。節をピックアップしているが、JARに掲載されている内容を優先しているとのこと。
- ・木村委員より、第6章の内容について説明がなされた。6章については32頁を25頁に減少させている。項や関連する図表や詳細すぎる内容を削除している。2章については32頁を21頁に減少させている。2013年版は含めていない。
- ・基本方針としては、全体を縮約するよりも項を削除することとする。
- ・次回WGで縮小版の内容を審議したのち、元の執筆者に確認を取る。内容を減らすことになるが、文献を引用することで補えるようにする。
- ・11月末にSSRCに原稿（案）を提出し、2024年3月末に回答があるとよいと考えている。その後、鋼構造委員会、構造本委員会の査読となる。ただし、学会の方針が未定であるため、学会からの回答を受けてスケジュールを再度検討する。
- ・契約書に関して木村委員から事務局に問い合わせをしているが返信はまだないため、再度確認を行う。

宿題

- ・5/10までに諸問題のpptをストレージにアップロードする。

次回委員会に向けて

- ・本日会議で検討した座屈設計指針改定方針を委員に送付するので、確認し、意見などあれば次回委員会までに連絡する。

6. 次回小委員会予定

日時：2023年6月中旬～7月中旬で日程調整する

場所：Web会議